

普及だより

令和6年6月 Vol.

117

くにみ

発行：伊万里農林事務所

西松浦農業振興センター

TEL(0955)23-5128 FAX(0955)23-5138

imarinourin@pref.saga.lg.jp

NEWS TOPICS

稼げる農業へ!

伊万里・有田地区の若手農家がチャレンジ!!

～ライフプランの実現と地域活性化に向けて～



▲伊万里4Hクラブ総会



▶経営研修会



▶一人一課題
分科会のように

伊万里4Hクラブでは、伊万里・有田地区の20～30代の13名が活動しています。

令和5年度の経営研修会は計4回開催し、クラブ員一人一人が数年後、数十年後の生活費や従業員数の推計から売上目標を立てました。就農間もないクラブ員も中堅クラブ員から助言を受けながら目標を立てるなど、クラブ員同士の研鑽も見られ前向きな話が展開されました。令和6年度は、目標実現に向けた具体的な取組を話し合う予定です。

今年度は新たに、ふるさと先生や有田川カワニバルへの出店等の地域活動も計画しており、食育の増進、地域貢献活動にさらに力を入れていきます。仲間づくりや組織運営の学びにうつつけの場です!

ご興味のある方は、西松浦農業振興センターまでご連絡ください!

イチゴ就農セミナー開催

令和6年1月21日(日)に、J Aや市町等の関係機関と連携してイチゴ就農セミナーを開催しました。当日は、室内で伊万里・有田地区でのイチゴ生産概況、経営指標、就農支援策についての情報提供を行いました。その後、伊万里市松浦町のイチゴ生産者圃場で栽培状況やイチゴ栽培を始めるきっかけなどの体験談について話を聞きセミナー参加者からいろいろな質問も出て活発な意見交換ができました。昨年度から稼働



しているJ A伊万里イチゴパッケージセンターの視察も行い、イチゴパックの検品作業や梱包作業について確認を行いました。

4組5名の方が参加され、「実際に生産者の声を聞くことができてよかった」との声が聞かれました。

今後も就農へ向けての支援を継続して行っていく予定です。



温暖化に対応可能な

モモ新品種「さくひめ」の早期加温実証

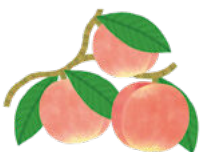
J A伊万里もも部会では、近年、暖冬による結実不良が問題となっており、平成30年から温暖化に対応可能なモモ新品種「さくひめ」の導入に取り組んでいます。

「さくひめ」の加温ハウス栽培につ

いては不明な点も多く、栽培研究会や先進地視察研修を行い、栽培技術の研鑽や新たな情報の収集に努めています。現在の栽培面積は約39aとなっており、令和5年度産については約1.3tの「さくひめ」が出荷されました。

さらに、今年度は「さくひめ」の特性を活かし、高単価での早期出荷を狙った早期加温の実証に取り組み、5月7日に出荷開始となりました。

今後も、栽培面積は増える見込みであり、さらなる安定生産、早期出荷体制の構築により、所得の向上と販売額アップを目指します。



稼げる農業の確立を目指し さが園芸888運動展開中

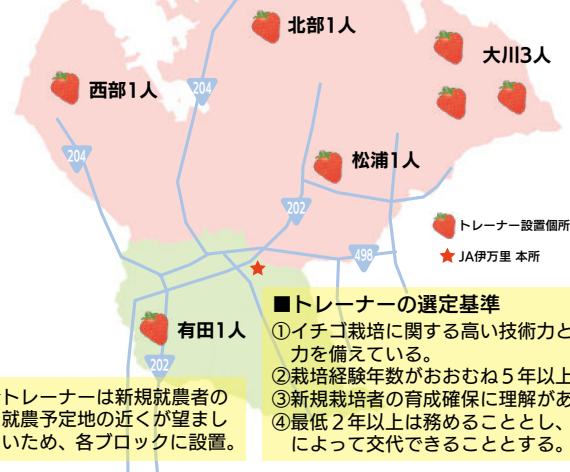
令和5年度、JA伊万里いちご部会では、「新部会員を部会全体で育てる仕組みを作る」を園芸産地888計画に盛り込み、就農希望者の農地の相談や技術習得のための実践研修を受入れる「トレーナー」を選定し、各地区に設置しました。

今年度は、現在2地区で取組まれている「梨」での新たな担い手確保の取組や、継承園確保など地区だけでは解決できないため、産地全体に広げることを検討しています。今後も稼げる農業の確立を目指し、関係機関一体となって支援していきます。

JA伊万里いちご部会 トレーナー制 イメージ図

■トレーナー制度について

- 部会から選出された生産者が自身が栽培するハウスにおいて、1～2年間、新規就農者の技術習得のための実践研修を行う。
- 指導内容は、イチゴ栽培に関わる管理全般（育苗、本圃管理、収穫、バック詰めなど）で、就農前の農地の相談から就農後も良き相談相手として継続的に関わる。



■トレーナーの選定基準

- ①イチゴ栽培に関する高い技術力と指導力を備えている。
- ②栽培経験年数がおおむね5年以上
- ③新規栽培者の育成確保に理解がある。
- ④最低2年以上は務めることとし、状況によって交代できることとする。

☆トレーナーは新規就農者の就農予定地の近くが望ましいため、各ブロックに設置。

「第26回全国農業 担い手サミット inさが」を 開催します！

令和7年1月22日(水)～23日(木)に佐賀県では初となる「全国農業担い手サミット」を開催します。

本大会は意欲ある農業者が一堂に会し、農業経営の現況や課題についての認識を深めるとともに、相互研鑽・交流を行うことを目的に、平成10年度から毎年、開催されています。本県でも全国から1000名を超える農業の担い手が集い、当地区でも120名を受け入れ、2日間にわたり交流を行います。

この半世紀に一度しかない佐賀大会の機会。ぜひ皆さん参加してみませんか。
【募集開始：令和6年8月】



磨き 高め 未来に継(つ)なげる
～集え！担い手 維新の地 佐賀へ～
日本農業

北ノ川内 若手グループによる 意見交換会の開催

有田町北ノ川内集落では、令和6年3月17日に集落内の若手の親睦交流と、農業への関心の掘り起こしのため、若手のみで長崎県南部生産組合へ先進地視察研修を行いました。視察をきっかけに、参加した若手を中心にSNSグループが作られ、北ノ川内集落をより良くするための意見交換会の開催に結び付けました。

第1回意見交換会では、「集落を守るために収益性のある活動」をテーマに話し合い、その結果、北ノ川内で生産された米の収益性向上を目指し、集落で生産された米を集落内へ向けて販売することになりました。

販売に向けて様々な課題がありますが、一つ一つ話し合いを重ね、販売方法について検討をおこなっています。



農大生募集のお知らせ

お問い合わせ先

○農業大学校

〒840-2205 佐賀市川副町南里1088

Tel: (0952) 45 - 2144

Fax: (0952) 34 - 7004

E-mail: nougyoudaigaku@pref.saga.lg.jp

農業大学校ホームページ、農業大学校YouTubeチャンネルもご覧ください！

佐賀農大の詳細い
情報はこちらから

さがのうだい

検索



農大HP



農大YouTube
チャンネル

佐賀県農業大学校では令和7年度入学生を募集しています！

農大の魅力を紹介する「オープンキャンパス2024」の開催日時は下記の通り。

【第1回】2024年7月 7日(日)

【第2回】2024年8月24日(土)

詳しくは佐賀県農業大学校、または西松浦農業振興センターにお問い合わせください。

令和六年度

職員紹介



前列(右から)

信原 浩二
(土地利用型作物・畜産担当係長)

佐伯 志津子
(農業企画課長)

大串 宏之
(副センター長)

早田 文
(センター長)

徳永 敦子
(普及課長)

片淵 恵子
(経営担当係長)

後列(右から)

松本 拓己
(土地利用型作物)

亀川 正義
(畜産)

原川 俊輔
(果樹)

猿渡 亨丞
(畜産)

深町 周司
(野菜・花き)

南里 敏彦
(農業企画課)

宮崎 訓里
(農業企画課)

野口 真弓
(園芸担当係長)

坂本 紀子
(土地利用型作物)

吉牟田 瑠満子
(経営)

山口 妃鶴
(農業企画課係長)

外村(右から)
福田 茜
(野菜・花き)※

綾部 守
(野菜・花き)※
※東松浦農業振興センターと兼務



久保田雅也 氏(有田町)

私は現在、西松浦郡有田町で胡瓜を約18a栽培しています。伊万里農林高校を卒業し農業の知識・技術を習得するため農業大学校へ進学しました。卒業後は胡瓜農家さんの下で2年間研修を行い、令和6年3月に新規就農しました。

私は幼い頃から祖父が農業をしている姿に憧れており、今は亡き祖父が大切にしてきた土地を守りたいという思いで地元に残り就農を決意しました。

現在は資材、燃料等の高騰などで苦しい状況ですが、収量をいち早く上げられるよう、栽培技術を向上させ、安定した収益化に取り組んでいきます。また地元が好きということもあり、農業を盛り上げて貢献できるような頑張っていきたいと思っています！

